

南スーダン 広島で研修

政府関係者ら 被爆体験聞く



小倉桂子さん(右)の被爆体験を聞く研修生たち=広島市中区田中町

アフリカ・南スーダンの政府関係者やNGO職員を広島に招き、平和構築やリーダーシップを学ぶ研修が開かれた。発展途上国や紛争国の人材育成をする国連機関「国連訓練調査研究所(ユニタール)」広島事務所の主催。計20人は1月26日まで広島市に滞在し、原爆の被害と戦後の復興についても学んだ。

研修生は広島市中区内のホテルで22日、爆心地から2・4キロの自宅で70年前に被爆した小倉桂子さん(78)の被爆体験を聞いた。小倉さんは原爆投下直後の画像や映像を見せ、「たった一つの爆弾が一つの都市を破壊した。たくさんの方が人が私に助けを求めたが、助けてあげられなかった」と当時の体験を語った。時間

「核といのち」サイトでも

朝日新聞デジタルの特集サイト「核といのちを考える」(http://www.asahi.com/special/nuclear_peace/)では、核兵器や原子力をめぐる最新ニュースを紹介しています。

南スーダンは、2011年にスーダンから独立した

が経ってからも人々は放射線の恐怖と闘ったことや、差別も体験したことも伝えた。研修生からは質問も出た。「なぜ原爆が落とされたのか、日米の政府に釈明を求めたいと思わなかったのか」という問いに、小倉さんが「二度と核兵器を使わないで欲しいと思っている。でも相手を非難するよりも、平和のために一緒に活動することが大切」と答えると、研修生から拍手が起きた。

ばかりの若い国で、長く内戦が続いた歴史がある。南スーダンメディア向上協会が働く研修生のラヒマ・サ

イマさん(33)は、「母国でも広島と同じように人が殺され、町が破壊された。小倉さんの話を聞いて、報復

や説明を求めるよりも、『許すこと』が前に進む鍵だと感じた」と話した。(池上桃子)

Asahi Shimbun, 3 February, 2016

Public Officers from South Sudan took training programme in Hiroshima held by UNITAR.

They listened to the testimony of Atomic Bomb.